



題字 藤原田 親

No. 910

2019/11/25

中日友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都千代田区浅草橋2-1-3
浅草橋5-5 5階
電話 03-5839-2149(TEL)
FAX 03-5839-2141
http://www.jcfk.or.jp
E-mail:okakuchou@jcfk.or.jp
社印 00119-1-21176

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL: FAX 0861-258-8806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福河町東32461-41
TEL: FAX 0861-411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net
メールアドレス
rizhongyouhao@yahoo.co.jp



自衛隊が共存する町

奈義町文化センターで「岡山県母親大会」開かれる

一〇月二〇日、岡山県母親大会が奈義町で開かれました。六四回日本母親大会が静岡で八月開かれ、全国九〇〇〇人の参加で成功しています。県母親大会を東北の奈義で開くのは、初めてなので、心配もあったようですが、杞憂でした、四〇〇人が参加し、大盛会でした。会場の奈義文化センターの北に、那岐山がくつきり姿を見せていました。

あること、の思いを強くさせるお話でした。母親大会恒例の活動交流も、県下の女性の活動が多分野に亘って旺盛に行われていることがわかる報告でした。

午後は見学分科会の二つを含む一三分科会で討議が行われました。私は、日本原基地から平和の問題を考える」という最も大きな分科会に参加、講師の島さん、奈義町議の森藤政憲さんが助言者でした。陸上自衛隊の演習場は奈義町の五分の一を占め、駐屯地も抱えているのが奈義町です。

日本原演習場で、今回五回目

となる日米共同訓練が年内に来ることが予想されています。

沖繩の海兵隊、そしてオスプレイがやってくる可能性が取り沙汰されていると言います。一方、町作成のチラシ「子育てするなら奈義町で！『平成二六年合計特殊出生率二・八一達成』という文字、医療費を高校生まで無料化」奈義町育英金貸与制度」出産祝い金」などなど。自衛隊が共存している町が抱える問題は複雑です。

写真は、全体会の活動交流新婦人の報告です。

曾田和子



いや、だって、集まってる人たち、普通の人ですよ？ あんなブルース・リーみたいなことやってら、ぐるっと回ってきたヌンチャクで後頭部を強打されて自滅！ いやいやそれ以前に、当たるのが怖くてびびって振り回せない人がたくさんですよ。

農具が、ブルース・リーレベルの身体能力がなければ扱えないようなものなわけじゃないです。使うたびに怪我をするような農具だと、使う人がいないですよ。そして合宿のタイトルは「双節根(ヌンチャク)基本操法合宿」です。

武術としても健康法としても役立つ、ヌンチャクの操法を教えてくださいました。

小川涼子



太極拳

大阪西支部のヌンチャク合宿に参加しました

2019年11月9日〜10日の大阪西支部の双節根(ヌンチャク)基本操法合宿に、青木、小川、押柄の3人が参加してきました。

ヌンチャクと聞けばブルース・リーを思い浮かべる人も多いのではないかと思います。わたしにとつて

のブルース・リーは黄色い全身タイツの人ですが……。

ただし今回の合宿は、ブルース・リーのように、ヌンチャクをびゅんびゅん振り回して、敵をバツバツとやっつけるような技の講習ではありませんでした。

です。

日本語教室の現状

―開講十五周年に当たって―

日中友好協会岡山支部 小林軍治

中国帰国者(残留孤児・婦人及びその家族)の日本語教室は、2004年10月23日、高島団地内の集会所で始まりました。この教室は、中国「残留孤児」訴訟支援活動の中から生まれました。

2014年11月16日、高島公民館で中国帰国者の日本語教室10

周年の集いを開催しました。今年で、開講15周年になります。2019年11月、岡山市内の日本語教室は上の一覧表のようになっています。

各教室とも日本語の文法、会話、日本の生活習慣などについて学習しています。現在の受講生は、一世の高齢化にともない、二世・三世・四世とその配偶者及び県内在住の中国人が多くなっています。

これまで日本語教室は、次のような役割を果たしてきました。

- ① 日本語の学習を通じて、生活意欲を高めるとともに恒例の帰国者にとっては、生涯学習の場となっている。
- ② 学習の場が帰国者の居住地域に密着した公民館・福祉交流プラザであることは、地元の人々との共生の場にもなり、住みよい地域社会実現の一助になっている。
- ③ 中国帰国者の歴史と現状を知るうえで、重要な場となっている。

若い世代の受講生の思い

日常生活には困らない程度の日本語が話せる、40代〜60代の受講生は、次のような思い出教室に来ています。

- ① 日本語できちんと文章が書きたい。
- ② 人の前で日本語で弁論できるようになりたい。
- ③ 日本語能力検定一級を取り、仕事に活かしたい。
- ④ 新聞やテレビの内容をよく理解したい。
- ⑤ 子供や孫と日本語で深い内容の話がしたい。



芳田日本語学習講座の授業風景



一方で60代後半から70代の受講生は、日本語の学習と同時に、日本料理や中国料理をつくりながら、講師との会話や交流を楽しんでいます。

講師の課題

2004年の開講時、講師団の多くは50代、60代前半でしたが、現在は、70代前半から80代近くになる人が大半です。夜の講座がだんだん困難になってきています。

私も今年で喜寿を迎え、あと何年続けることが出来るか、2024年の20周年までは、がんばり

たいと思っています。最後に日本語教室は、日本語を勉強するだけでなく、日本と中国の両方の文化に触れながら草の根の「日中友好」の場として、今後とも大切にしていきます。

次回の新聞発送作業は
12月1日(金)午後1時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方で

小林田内 犬飼小真 曾竹坪井

岡山市内中国帰国者の日本語教室一覧表

項目		曜日	時間	受講生	講師	場所
教室名						
岡山市	さいでん教室	月	14~16	7人	4人	福祉交流プラザ さいでん
		水	18:30~20:30	8人	2人	
		土	10~12	7人	4人	
	高島教室	火	10~12	10人	5人	高島公民館
		土	10~12	8人	3人	
	長岡教室	水	14~16	5人	3人	長岡集会所
	芳田教室	火	14:30~16:30	5人	3人	芳田公民館